令和４年度　長野県公立高等学校入学者選抜学力検査の結果について

学びの改革支援課

１　受検者数　　（ ）内は前年度比較

・受検者総数　10,168 人(＋220 人)

・全 日 制　　9,908 人(＋179 人)、定 時 制　128 人(＋10 人)、多 部 制　132 人(＋31 人)

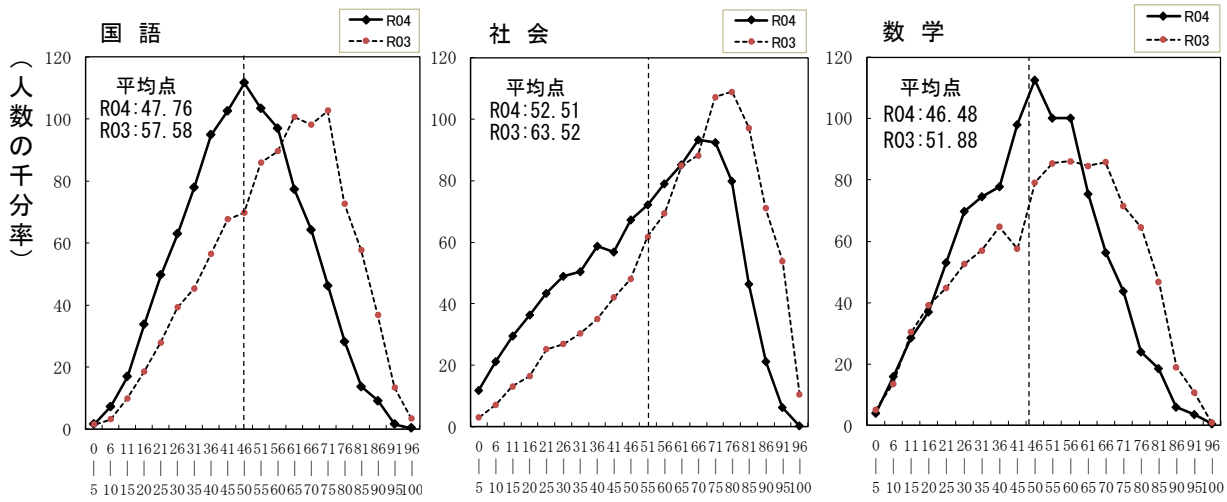
２　教科別結果

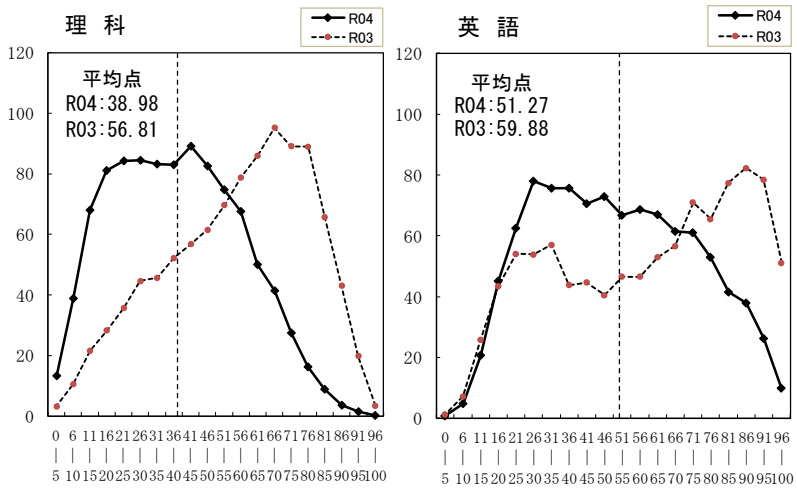
（ ）内は前年度数値と増減

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
平 均 点	47.8 (57.6, -9.8)	52.5 (63.5, -11.0)	46.5 (51.9, -5.4)	39.0 (56.8, -17.8)	51.3 (59.9, -8.6)
100 点の人数	2 (1)	1 (24)	0 (1)	0 (4)	14 (85)
0 点の人数	4 (4)	17 (8)	5 (2)	16 (4)	0 (2)
標準偏差*1	17.2 (19.0)	21.7 (20.9)	18.2 (20.9)	19.2 (21.3)	22.0 (25.9)
変動係数*2	0.36 (0.33)	0.41 (0.33)	0.39 (0.40)	0.49 (0.38)	0.43 (0.43)

*1;数値の分布の散らばり具合(ばらつき)を表すもの。標準偏差が大きいと、平均値のまわりの数値の分布の散らばりが大きい。
*2;平均値に対して標準偏差がどの程度の比率になるかを示すために、標準偏差を平均値で割ったもの。平均値が異なっていても散らばり具合を比較できるように補正した値。

３　教科別得点分布グラフ





作問にあたっては、設問毎の予想正答率を算出したり、教科横断的に協議を深めたりしながら検討を行ってきた。思考力・判断力・表現力を問う問題が増え、各教科とも問題の難易度については若干上がったと考える。

理科で平均点が大きく下がった理由は、単純に知識のみを問うのではなく、観察・実験を通して知識や技能を用いて表現する問題や、実験結果を分析する上で計算を必要とする問題が多かったからであると考えられる。

４　結果の考察と授業改善に向けた取組

○　今回出題した問題の中から、複数の資料を比較し関連付けながら事実をもとに課題を見出す力や、課題解決に向けた取組を考察し、妥当性や効果、実現可能性等についての自分の考えを説明、記述する力をみた社会の問題（問3Ⅱ(2)②）について、結果を考察した。

【問題（抜粋）】　資料から読み取れることを手がかりにして、二酸化炭素排出量を減らす取組のうち、「地産地消」と「教室照明のＬＥＤ化」について、二酸化炭素を排出量を減らすことができる理由と、二酸化炭素排出量を減らす取組をすすめるうえでの課題について考察し、表現しなさい。

〔考察〕・約 35%の受検者が正答であり、昨年度の約 67%から大きく下がっている。昨年度は「期待」と「心配」をそれぞれ別の資料をもとに考察することを求めたが、今年度は「理由」と「課題」を同じ資料から考察することを求めたためであると考えられる。「理由」のみ、もしくは「課題」のみ記述できた受検者が約 29%であり、１つの資料を多面的・多角的に考察して自分の考えを表現していく学びを充実させていくことが大切である。

〔授業改善に向けて〕

日常の社会生活との関連を大切にした課題解決型の学習を

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善によって、社会的事象に関する課題を明確にし、様々な考えに触れながら見通しをもって追究できる単元を構想したい。

【探究的な学習展開の例】

課題把握	動機付け （学習課題の設定）	「使うエネルギーを７割減らさなければならないが、二酸化炭素排出量の多い自家用乗用車の利用が多い。どうすれば二酸化炭素排出量は減らせるだろう。」
	方向付け （課題解決の見通し）	「日本の排出量は全体の約６割が住居や移動、食に関連するものだから、身近な所から減らしていけばよい。」
課題追究	情報収集 （予想や仮説の検証）	・スーパーなどで食材の産地を調査する。 ・輸送に関わる二酸化炭素排出量を計算する。 ・食料自給率などの統計資料を集める。
	考察・構想 （社会的事象の意味等を考察、解決に向けて構想）	・もっとも流通量の多い食材を使用すると外国産が多い。 ・市場流通の食材より地産地消の食材で作ったほうが二酸化炭素排出量は少ない。
課題解決	まとめ （考察・構想したことのまとめ）	・地産地消の食材を使うことで輸送に関わる排出量は減らせそうだ。しかし、人口の多い都道府県は耕地面積が狭く、食料自給率が低いため、地産地消を行うことは難しそうだ。
新たな課題	振り返り （学習を振り返って考察）	・様々な面や立場から考えることで、二酸化炭素排出量削減に向けての自分の考えが深まった。実際に自分の身近なところで行うことが出来るのか考えてみたい。

５　学力検査問題に対する外部評価者・中学校からのご意見

〔成果〕

・学習指導要領に対応した評価方法がしっかりと意識されており、思考力、判断力、表現力等について正しく評価することを重視した問題であり、評価できる。

・日常事象の考察が各問に盛り込まれており、育みたい資質・能力にかなった問題である。

〔課題〕

・問題文の量が多く、読み取るだけで時間を費やしてしまう。

６　今後の対応について

・育成を目指す資質・能力を適切に評価できる問題となるよう、問題数、文字数等のバランスに一層配慮しながら、引き続き工夫する。

・生徒が抱く問いを基に、考えたことを表現し対話を繰り返しながら追究していく学びを進める。